

上演 8

2024年8月1日3校目
東北ブロック

青森県立青森中央高等学校

「駈込み訴え」

第48回全国高等学校総合文化祭
第70回全国高等学校演劇大会

講評文

生徒講評委員会 担当委員

神奈川県立新城高等学校

村上葵

舞台はとある演劇部。地区大会で太宰治の「駈込み訴え」を上演するべく、演出のコスズによる威圧的で厳しい稽古が行われている。異常なことを理解していながらも、圧倒的なコスズの牽引力を前にすると、逆らうことができない部員たちの姿は、まるで弟子たちがイエスを畏れつつも崇拜しているような構図に見え、異様で気味が悪い印象を受けた。特にモモカはコスズと同学年であるにも関わらず、物を投げられる等の酷い扱いを受けており、自分を保つために必死に正当化しようと葛藤する姿があった。この二人の関係性がイエスとユダにリンクし、最後の裏切りへと繋がっていく。

コスズはモモカをずっと繋ぎ止めておきたかったのだろう。飴と鞭を駆使して自分から離れられないようにするという手法がDVにも似通っている。2人の関係性は純粋な愛では片付けられない共依存になっているのではないかという意見も出た。しかし、この不安定なまま保っていた関係にもついに限界が来る。モモカは受験の校内推薦を勝ち取る為に、隠し続けてきた演劇部の内情を明るみにして、コスズを裏切る決断をする。点滅する照明、鳴り響く楽器の音、踊り狂う弟子達。同時に叫ぶように語りかける姿に、モモカ（ユダ）のぐちゃぐちゃに感情が入り乱れ、もがき苦しむ様子が表されていた。だが、そこには復讐に燃える憎しみや恨みだけでなく、コスズに対する愛も存在していたのではないか。ラストの細かい紙吹雪が本当の雪のように二人に振り積もっていくシーンからは、裏切るにも完全には裏切れないまま凍ってしまったように見え、狂気じみているながらも、どこか神秘的で美しかった。

ただコスズが悪だったのではなく、相当なプレッシャーがあった故に空回ってしまったという事実が私達の心を痛ませた。部活動に熱心に取り組むことは大切だけれど、自分の価値観を他人に押し付けるだけではなく、周りの理解を得ながら上手くバランスをとっていく事の重要性を再確認することが出来た。

「ユダは誰の心にもいる。」という台詞が心に突き刺さった。自分の心にもモモカと同じような明暗があり、憎しみ愛という感情に覚えがあったため、もし身近に崇拜されるようなリーダーが居たとしたら、自分もモモカと同じように取り返しのつかない行いをしてしまうかもしれない。自分事として考えるほど辛く、苦しく、恐ろしくなる作品だった。

